

小林市議会「みんなで語ろう会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	三松中学校区	担当班	議員名	担当
参加人数	24名（男19名 女5名）		溝口 議員	司会進行
開催日	令和元年8月6日（火）		時任 議員	活動報告（総務文教）
開催時間	午後7時00分～8時30分			（経済産業）
会場	農村環境改善センター			（市民厚生）
その他			原 議員	（広報広聴）
			西上 議員	（総務文教）
		1班 三好議員・舞田議員	記録・報告書作成	

◎班代表者 時任 議員

意見交換会の内容		※□市民の意見 ■議員の意見
テーマ①	市民が利用しやすい地域交通のあり方について	
【意見交換の概要】		
<p>□コミュニティバスにみんなで乗ろうと市報での呼びかけがあり、乗りたいと思うが、乗る場所が分からない。走っていない。（下堤）三松循環線は走行時間配分が悪い。乗りたい時間に乗れない。</p> <p>■コミュニティバスは宮崎交通路線と競合を極力避けたいということで走れない。3年に1回見直しがあるので、委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。</p> <p>□福祉タクシー券の利用範囲（同じ敷地内に家族など送迎ができる人がいれば、利用はできない。）について、家族が仕事に出ている時に突発的に外出が必要となる場合があった場合、利用できるようにならないか。</p> <p>■家庭の実情に配慮した形で、利用範囲は改善されている。委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。</p> <p>□水流迫地区で「茶飲ん場」を開催しており、チームみまつ協働体の安全部会からの支援をいただき、「茶飲ん場」に来るときだけだが、三和交通に来てもらうことができている。乗り合い利用はできないのか。</p> <p>■乗り合い利用は可能である。</p> <p>□政策の実施に当たって、地域の実態に即したサービスが必要では。特に高齢化の進んだ地域は限定したサービスが必要ではないか。限られた財源を有効に使うためには、一定の基準を設け、高齢化率によってサービスを拡大していくこともこれからの政策には必要ではないか。</p> <p>■今後はそのようなことも必要になってくる。委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。</p>		

テーマ②

地域福祉の推進について

【意見交換の概要】

□地域福祉の問題で高齢者の1人暮らしが増加してきている。見守り隊など地域共生社会を唱えているが、地域のコミュニティが崩れ、つながりがなくなっている。地域で支え合う体制や意識改革などはないか、議会などで議論を深めてほしい。区・組の加入者が少なくなっている。横断的に取り組んでいただきたい。

■2040年に高齢化率が41.1%になるという見込みが出ている。議会としてもしっかり考えていく必要がある。地域コミュニティの重要性等を委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。

□精神障がい者のコミュニティの場所がない。居場所がない。相談をしたいが、当事者の理解がないので、話す度に壁ができてしまう。ピアサポートシステム(同じ対場の人たちがサポートをし合う)という仕組みが宮崎市や都城市にはある。ピアサポーターとして学ぶ機会が欲しい。宮崎県にはないが、ピアサポート専門員という人がいるところもある。

□福祉関連の申請、相談の窓口がわかりづらく、利用しにくい。都城市はわかりやすいパンフレットがあり便利である。小林市も作ってほしい。福祉のあり方については当事者を含めて考えてほしい。障がい者の思いが伝わらない。

■障がい者団体等と意見交換をしながら、委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。

意見交換会の内容

※□市民の意見 ■議員の意見

自由意見の交換

□三松地区は子どもが増加しているが、遊ぶところがない。どうにかならないか。

■三松地区に限らず、小林全体の問題として、公園の設置・整備等、委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。

□県内企業が高校生に体験学習をさせたところ、県内に残ったということを県の広報紙で知った。小林市も雇用の場を確保するため、企業誘致ができないか。

■高校生との意見交換会を実施したが、一人ひとりそれぞれ夢を持っていた。市外に出てもUターンできるような雇用の場を確保するためにも、企業誘致で経済を縮小させないよう地域の意見を伝えていく。

□出産支援資金について内容を教えてほしい。

■西諸地域で分娩可能な病院がなくなったことから、小林市・えびの市・高原町の首長どうしで、小林市以外の病院に妊婦が健診や出産に行くための費用として支援金が創設された。平成30年1月1日から分娩再開されたことから、廃止された。

妊婦検診について

■ 全員ではないが市立病院で対応できるようになった。

プレミアム付商品券について

■ 低所得者と3歳児未満(15,000人)を対象にプレミアム付商品券を販売する。(20,000円で25,000円分)

電気事業(グリーンシティこばやし)について(利益について)

■ 現状では黒字として試算しているが、これからもしっかり検証していく必要がある。

えびの市では野菜の価格保障をしていると聞いているが、このような取り組みは小林市でもできないか。

■ 国・県の価格安定事業として実施している。市が独自に単独で行っていない。

新規就農支援資金について

■ 親元就農も含め、新規就農支援事業を実施している(市単独事業)。これまでに約20名程度が活用している。

廃プラスチック類(レジ袋の有料化)について、行政の取り組みがあるのか。

■ これまでのリサイクルの取り組みと併せて、有償化の動きがある。

林業の後継者対策を考えて欲しい。

■ 国・県の補助事業がある。委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。

福祉タクシー券について、就労証明や家族証明があると出るが、福祉バスは、福祉のバス停まで行かないといけないため、行けない人はバスに乗れない。須木の人には家まで来てくれるので須木のほうが恵まれている。自宅まで来てくれるバスが必要ではないか。

■ 路線によっては利用率が低いところもある。今後交通手段の確保がますます重要になる。委員会等でも十分討議し、地域の意見を伝えていく。

議会活動報告への意見